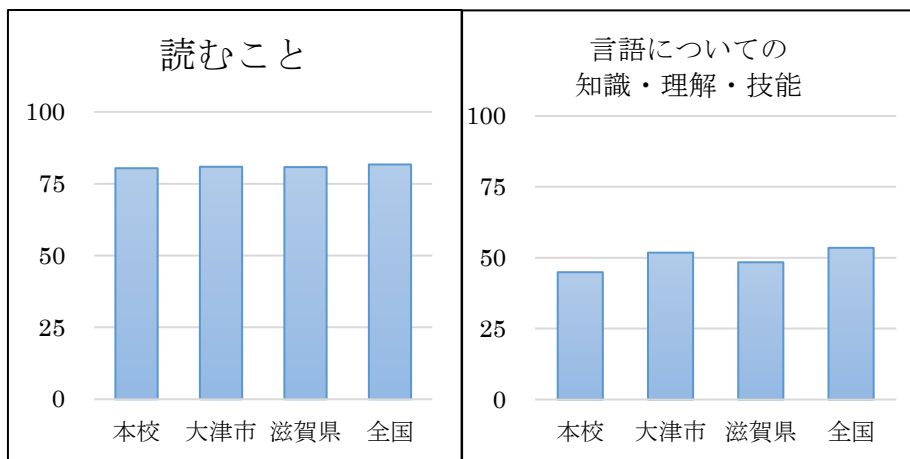


学力向上に向けた分析と今後の取り組み

《全国学力学習状況調査（2019/4/18 6年生対象）による本校の強みと弱み》

【学習にかかわること 国語】

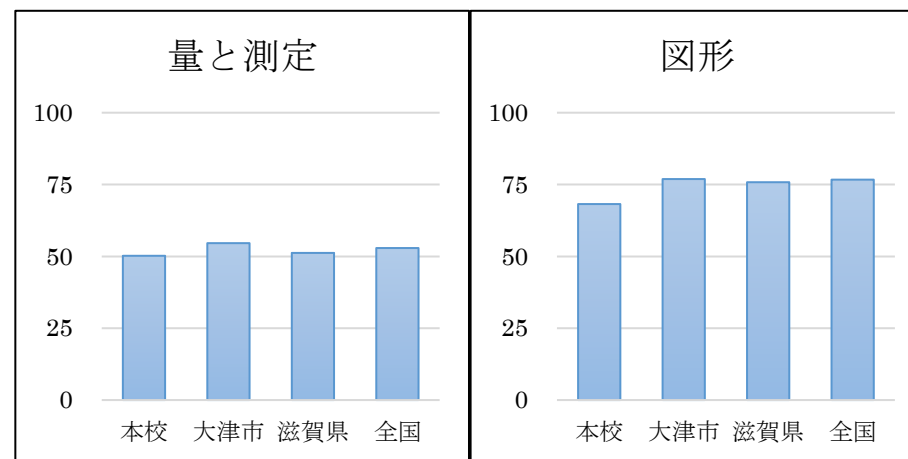


【強みと弱み】

「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」問題では、正答率が全国・県・市をやや上回った。解答の条件（「文中の言葉を取り上げる」ことや「70文字以内で書くこと等」）を満たしながら、内容を読み取り、まとめて書くことができた。

一方、「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」問題は、正答率が低く、目的に応じて、質問を工夫することに課題が見られた。また、漢字の書き取り問題でも正答率が低いものも見られた。

【学習にかかわること 算数】

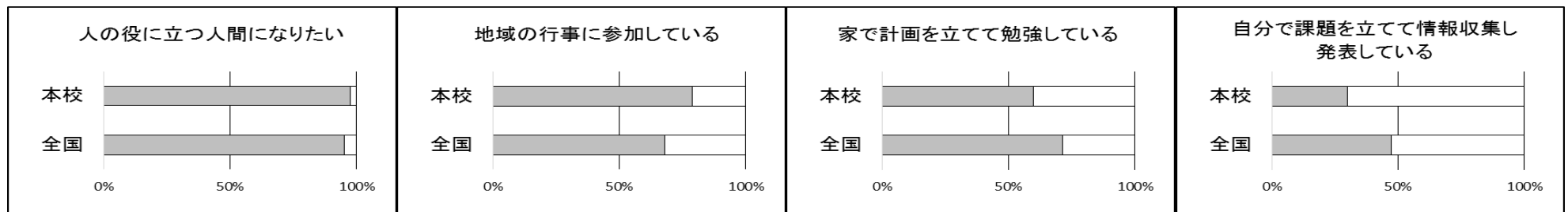
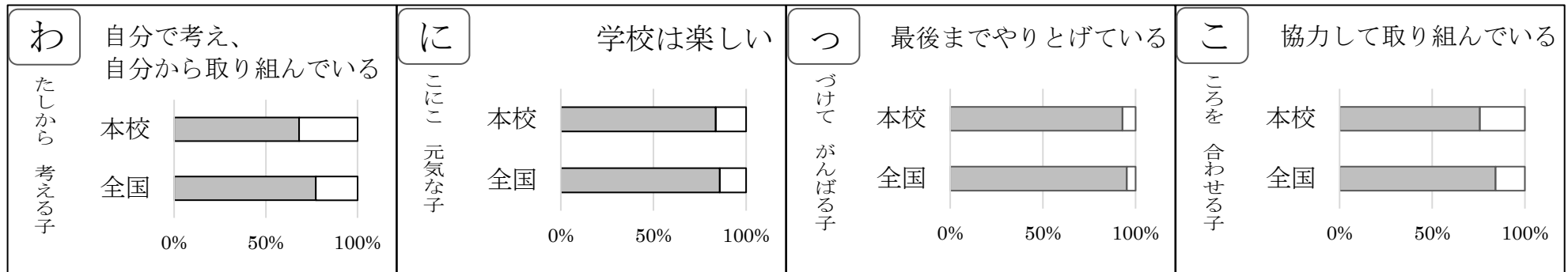


【強みと弱み】

「示された計算の仕方を解釈し、計算しやすくするために式を工夫する」問題では、県の正答率をやや上回った。計算を能率的にすることや工夫して計算することの良さに気づくことができた。また、既習の求積公式を活用する問題では、全国・県・市の正答率と同等であった。

しかし、「台形の性質や構成要素に着目して、図形を組み合わせてできる図形を判断する」問題では、全国、県、市よりも低い状況にある。特に、台形をずらしたり、回したりすることをイメージしながら解く問題に課題が見られた。

【生活に関わること】(教育目標「わにっこ」と近い内容の質問項目を掲載しています)



【強みと弱み】本校児童は、過去の調査結果を比較した経年変化からみても、「地域の行事に進んで参加している」割合が非常に高く、地域の方々の学校に対する支援体制も整っている。また、「将来の夢や希望を持っている」「難しいことに挑戦する」「人の役に立ちたい」と考えている児童の割合も高く、特別活動やキャリア教育に力を入れている成果でもあると考える。しかし、自分で計画を立てたり、課題を設定したり、答えのない課題を工夫しながら解決したりする力に弱さが見られる。各教科の学習や家庭学習においても、自ら考え、取り組むことができるよう、授業改善や家庭学習を定着させる必要がある。



- 【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取り組み事項】
- 学校での授業改善 <何を学ぶか>具体的な活動(話す・聞く・操作する等)を通して、文章や相手の気持ちを読み解く力の育成
 <どのように学ぶか>人間関係形成において、主体的に関わり、対話することにより自己理解・他者理解に向かう力の育成
 <何ができるようになるか>地域社会と協働することにより、地域の課題や情報を収集し、自らの課題として解決に挑む力の育成
 - 家庭での学習習慣改善…自分で学習計画を立て、一定の学習時間の定着化 ・ 興味のある内容や課題に取り組む自主学習ノート実践
 - 学校・地域・家庭の改善…ふれあい教室での交流 ・ 学習、活動支援体制の拡充 ・ 地域資源(人・もの・事)の新規発掘と有効活用